

7 - 1 地震予知研究計画に基づく地磁気永年変化精密観測 (1977年1月～1983年9月)

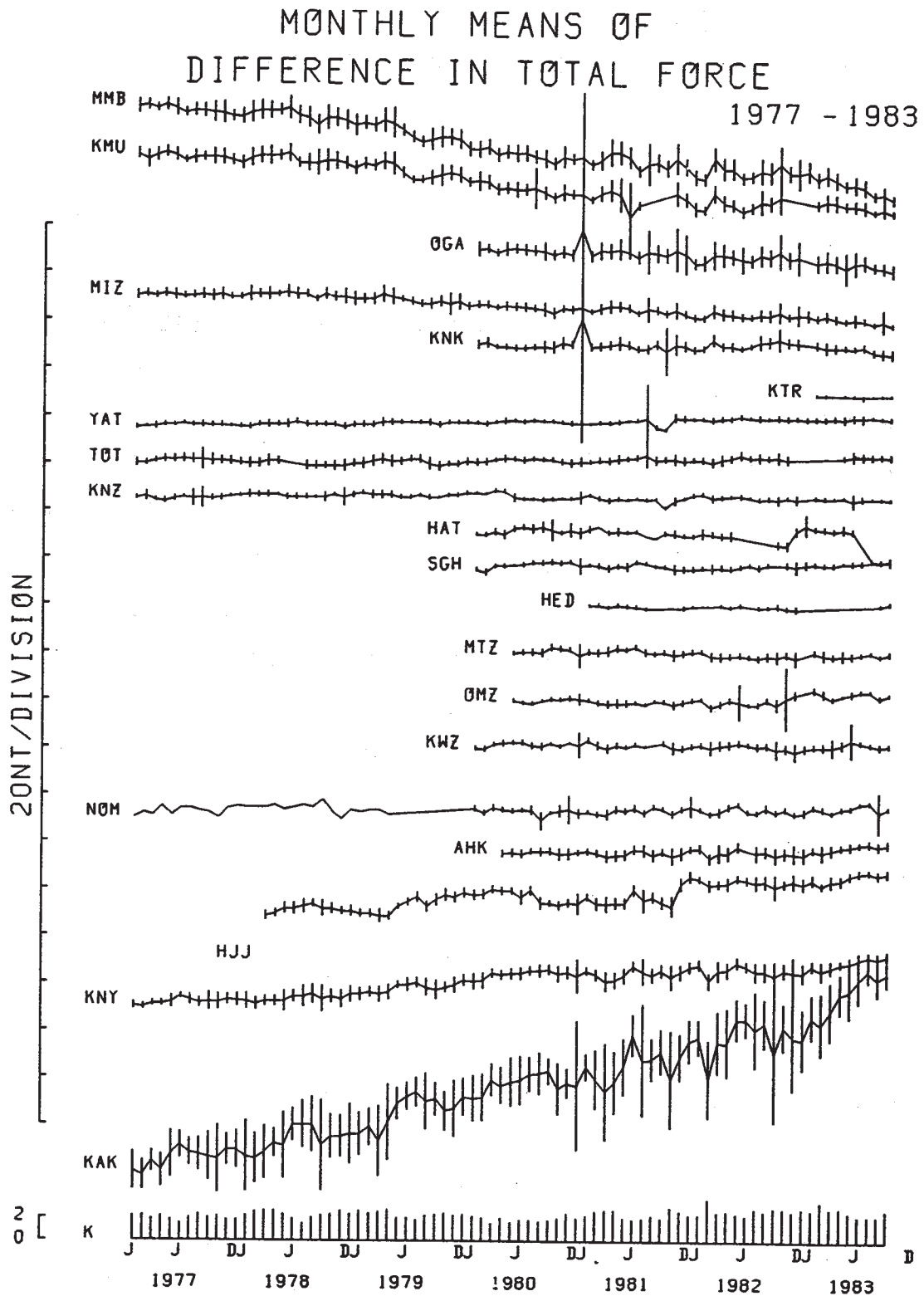
Precise Observation of Geomagnetic Secular Variation under the Project
of Earthquake Prediction Research, January, 1977 - September, 1983

地震予知研究計画・地磁気研究グループ

Geomagnetic Research Group on Earthquake Prediction

1977年1月から1983年9月までの期間に於ける柿岡を基準とした地磁気永年変化観測点のプロトン磁力計による全磁力夜間値差を整理収録したものである。各地点の全磁力差、柿岡の該当時間帯のK指数それぞれの月平均値を第1図に示す。スケールは20nT/1目盛。尚、使用データは、1980年3月以前は00時40分～01時20分の5個、1980年4月以降は00時40分～03時00分までの15個、の10分毎の値である。但し、男鹿、金華山については全期間を通じて5個である。

最近の結果を概観したところでは、初島(HAT)で1982年10月から12月にかけて8nTの増大、1983年5月から7月にかけて12nTにも及ぶ減少が認められる。詳細は東大地震研で検討中である。また、御前崎(OMZ)で1982年5月頃から漸増傾向が見られ、1983年9月で約3nTに達している。これは観測点付近に鉄筋建造物ができたためと考えられる。その他顕著な異常は認められない。



第1図 柿岡に対する各観測点の全磁力夜間値差の変化, 1977年1月~1983年9月

Fig. 1 Month-to-month change of the difference of nighttime total force intensity at each station from that at Kakioka, for the period from January, 1977 to September, 1983.